

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	声優演技Ⅱ	
科目基礎情報					
開設学科	声優・演劇科	コース名	声優コース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必須	時間数	70時間
単位数	2単位			授業形態	実習
教科書/教材	テキスト、資料などは授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	ヨシダ朝、成田カイリ、熊谷ニーナ		実務経験の有無・職種	有・声優、俳優	
学習目的					
「表現力を高める」これがこのゼミのテーマです。そのためには1.読解力（認知）2.想像力（判断）3.コミュニケーション能力（操作）の3つをこの順番で鍛えていくことが必要。この流れを理解して体得することがねらいです。					
到達目標					
演劇のレッスンに留まらず、社会生活を営む上でも、相手とどう関係を築いていくかはとても大切な課題です。相手の言葉や行動をきちんと把握して（認知）、どう対処すべきか思い描き（判断）、相手と積極的に関わる（操作）、これができるようになることを目標としています。					
教育方法等					
授業概要	この授業では「アウトプット」することをレッスンの柱としています。読解力、想像力が身につかない原因の一つとしてあるのは「インプット」だけで終わっているからです。いくら良いものを吸収しても、自分の中に溜めこんで外に表現しなければ、誰の心を動かすこともできない。感じたことを「声に出す」「文字や絵に起こす」「体で表現する」というアウトプットが不可欠です。このゼミでは生徒に積極的には発言させ、体を使って表現させることを目指します。				
注意点	学生には積極的な授業参加を求めます。単に出席をして話を聞いているだけでは、このゼミの本来の目的から離れてしまいます。出席数ではなく、授業への関わり方を重視します。頭だけの発想を越えて、身体からの発想を獲得する手段としてエチュード(インプロ)を毎回行います。またテキスト（素材）を使った稽古を行い、その延長上に年数回の発表会を行います。 授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	発表会	60%	年数回の発表会や、毎回の授業における発表内容によって評価する。		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
	レポート	10%	毎回の、あるいは定期的なレポートを、授業内容の理解度を確認するために行います。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
2回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
3回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
4回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
5回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
6回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
7回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
8回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
9回	舞台作品表現		骨太の戯曲（一部）を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
10回	創作発表		自ら素材を持ちより、それをコラージュして20分～30分の作品にする。舞台作品に限らなくてもよい。創作し発表するプロデュース力を鍛える		
11回	創作発表		自ら素材を持ちより、それをコラージュして20分～30分の作品にする。舞台作品に限らなくてもよい。創作し発表するプロデュース力を鍛える		
12回	創作発表		自ら素材を持ちより、それをコラージュして20分～30分の作品にする。舞台作品に限らなくてもよい。創作し発表するプロデュース力を鍛える		
13回	創作発表		自ら素材を持ちより、それをコラージュして20分～30分の作品にする。舞台作品に限らなくてもよい。創作し発表するプロデュース力を鍛える		
14回	創作発表		自ら素材を持ちより、それをコラージュして20分～30分の作品にする。舞台作品に限らなくてもよい。創作し発表するプロデュース力を鍛える		
15回	創作発表		自ら素材を持ちより、それをコラージュして20分～30分の作品にする。舞台作品に限らなくてもよい。創作し発表するプロデュース力を鍛える		